

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300156		
法人名	社会福祉法人心愛会		
事業所名	ハーモニ並木		
所在地	郡山市並木5丁目6-7		
自己評価作成日	平成24年5月20日	評価結果市町村受理日	平成24年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年6月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

郡山市中心部の住宅に建てられた施設で周りには飲食店や公園などがあり外出や外食へでかけたりして生活をたのしんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ① 事業所では併設している小規模多機能型居宅介護事業所の職員と連携し、併設の利便性を活かした利用者のケアに努めており、利用者同士も日常的に交流があり、和やかで暖かい雰囲気の事業所となっている。
- ② 地域の行事にも積極的に参加し、地域との交流も増えている。
- ③ 職員と利用者のコミュニケーションも良くとれており、利用者の笑顔が明るく穏やかな生活を楽しんでいるのがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の手帳を全職員が所有、理念を共有行動基準にそって実践につなげている。	理念は地域密着型サービスを明記しているほか、事業所としての方針も掲げている。毎朝引き継ぎ時に全員で確認し、さらに毎日の行動指針に記入し全員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加、買い物、食事など外に出る機会を作り交流している。	地域の行事に積極的に参加し交流している。歌謡・フラダンス・絵画・お茶・お花等の各種ボランティアや小学生の社会見学等の受け入れは利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域向けの介護講座を開催して地域の方のお役立ちをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営会議を2カ月に一回開催し、取り組み。改善内容についてアドバイスをいただいている。	運営推進会議は定期的に併設している小規模とグループホームが合同で開催されている。委員は地域の関係する役職員が選任され地域との連携には有効な会議運営が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者、介護相談員など、事業所内でのサービスの取り組み等を含めた困りごとなど相談にのつていただいている。	開設当初から市担当者とは事業所運営や利用者の受入等について、相談しており、協力体制ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外研修を通し身体拘束をしないケアを理解し実践している。また身体拘束廃止委員会を構成し月に一回ミーティングをおこなっています。	身体拘束廃止委員会を設け、全職員がマニュアルを理解し、身体拘束をしない意識が徹底されている。日中の玄関の施錠はなく職員による見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通し虐待防止関連法の理解し注意している。高齢者虐待防止の取り組みについて委員会を構成し月に1回ミーティングを開催している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については内部研修勉強会を実施する予定です		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、不明な点がある場合その場で説明し御理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会を行い施設内外で食事会などを開催し話しやすい場を設ける取り組みをおこなっています。	家族の意向把握には面会時や利用者の状況報告等を通して意向の把握と情報を共有している。家族同士の食事会等を通して意向の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回全体会議や、個別カンファレンスを通して職員の意見や提案を反映させたり職員からの意見を元に職場環境の改善などに取り組んでいます	職員は管理者に意見や提言を気軽に言える体制となっている。提言内容によっては管理者は月2回の本部会議にあげ、運営に反映させる体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇格試験や資格試験取得の取り組みをおこない給料水準に反映されたり職員からの意見をもとに職場環境の改善に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に研修指導の部署があり施設内外の研修案内や指示を行い職員に合わせた勉強していける環境がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通して同じ環境で働いている人交流し意見交換をし意識の向上につながっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時、本人様または家族様からの要望をお聞きしケアプランに盛り込んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、本人様または家族様からの要望をお聞きしケアプランに盛り込んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時要望の聞き取りと合わせその他のサービスの提案などおこなっている。また、その方にとって本当に適したサービスなのかを検討し安心したサービスが送れるように考えています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	内部研修をとおり本人様主体の考えかた第1に考え暮らしをともにしている考え方を築けるように日々努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族様参加行事を通し情報の共有を行いながらお客様の支援を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や自宅の外泊を家族様と話しあいながら進めている	理美容院の利用は家族対応を基本としているが、馴染みの理容所の訪問も受け入れている。また、利用者の友人や親類等の訪問があり、馴染みの関係が継続が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置などを検討、気の合う方々同士日常生活の中で楽しく交流出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時本人様、家族様を通し情報提供などおこなっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活で会話などを通して希望や要望の把握をおこない月のカンファレンスで検討サービスないように結びつけている	正月や七夕時に短冊に書く一言や、利用者の何気ない一言にも気を配り希望や意向把握に努めている。これらを基に家族の意向も加え、月例会議で検討し、日々のサービスに織り込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様家族様から生活歴や趣味などの聞き取りをおこないサービス開始時に役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅にいたころの生活と変わりがないように支援していきアセスメントを定期的に行い状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新たな課題などが発生した時本人家族関係者との担当者会議を開催し介護計画の検討をおこなっている	介護計画は利用者、家族の意向を把握し利用者の現状に即した介護計画を作成している。利用者の状態の変化等には個別記録をもとに医師、家族、職員等関係者がミーティング等で話し合い介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成し情報共有しながら介護計画のみに直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の希望に沿った柔軟な支援が出来るように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	充実した援助内容が出来るように地域資源の把握に努めている(運営推進会議時に相談したりして情報を把握している。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族のかたの意向にそってかかりつけ医との連絡を密にとり迅速に対応している	かかりつけ医の受診は家族同伴を基本としているが利用者の状態によっては職員が同行する場合もある。歯科往診の支援もしている。受診結果は家族と情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、きにかかることなど看護師に相談個々に適切な受診や看護が受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時看護サマリーを病院に、提出して情報提供お見舞いに伺い状態の把握や相談員と連絡を取り病院と連携をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設協力医との連携をとり早い段階から本人、家族と話し合い事業所で出来ることを理解していただき今後の対応方法の説明をしている。ご希望により施設内での看取り介護をおこなっています	看取り指針を作成し利用時に家族の理解を得ている。重度化した場合には同意書を取り交わし、利用者と家族の希望を踏まえ、関係者が連携して看取り介護の実践をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通し訓練をおこなっている。又緊急時マニュアルの整備を行い冷静に対応できるようにしている、		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練計画にそって年2回非難訓練を実施している町内会に緊急時の応援をいただけるように働きかけをおこなっている	消防署と連携した年2回の避難訓練と防災計画に基づいた通報訓練は実施されている。職員全員が防災訓練に参加する体制とはなっていない。非常用食品は備蓄されている。	多様な災害状況を想定し、全職員が慌てることなく有事に備えられるよう避難訓練を重ねてほしい。避難訓練等は全職員が参加できるよう計画されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内研修の中で言葉かけや対応の仕方など教育を行っている。常日頃の会話の中でも職員同士意識しあい注意している	トイレや入浴時の誘導にはプライバシーを尊重して耳元での声掛けに努めている。職員は利用者に明るく接し、利用者と職員との会話も楽しそうで、安心して落ち着いて生活している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はコミュニケーションを多くとり想いや希望にきづくよう努力している、又自分で選択していただけるような働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りお客様のペースで希望に沿った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容店に外出、訪問理容を依頼、日常生活では洋服選びなどお客様主体で行っていただけるよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜を切ったり味付け、もりつけなどお客様と一緒に出来るよう努めている	敷地内菜園には季節の野菜が栽培され、食材として利用しており、職員や家族から野菜等の差し入れもある。利用者によっては準備から片付けまで進んで協力する方もいる。職員も一緒に会話をしながら食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメントを通し本人の能力に合わせた食事形態、季節や習慣を考えた献立作りに努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きなどを徹底し習慣にしていたり、出来ない方に関しては能力に合わせた口腔ケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし自立した排泄が継続、維持できるよう支援をしている	排泄委員会で検討し、全職員が一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導している。入院等でオムツ利用となった利用者も退院後、排泄パターンやしぐさから早めの誘導により、リハビリパンツ、布パンツに改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分量を把握、不足と思われる場合摂取の促し、また、腹部マッサージを行い出来る限り自然排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定をたてているがお客様の状態に応じて時間や曜日の変更もある	毎日入浴できる体制になっているが、週2回以上を基本として入浴の支援をしている。個別浴槽であるが、小規模施設に檜の大浴槽があり、小規模とグループホームの利用者が一緒に入浴を楽しんでいる。季節風呂として、菖蒲・ゆず・リンゴ・ミカン湯等もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活習慣に合わせた起床時間の尊重などリズムに沿った支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理を行っている。介護職員はアセスメントで既往歴を知り、処方箋で薬の作用、用法、用量など確認、必要時副作用などについて看護師より申し送られている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力をいかした役割づくりの支援、買い物散歩、外食、など気分転換をして過ごしていただけるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画の中で外出の機会をつくり支援している、又近くだが買い物、食事など希望に沿って外出している	外出支援は月例で計画されており、花見・あやめ園・夏祭り・買い物ツアー・紅葉狩り等がある。また、野菜作りや買物等で外気に触れる機会が多い。芋煮会は家族同伴での行事となっている。希望者の多い外食なども取り入れ外出の楽しみを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在トラブル防止のため急に必要になったものなどについては施設で立替をして買い物の対応をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合その都度対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や行事作品をかざり季節感を作るようにしている、照明などオレンジ色でやさらかな色合いをだしている。夏は日差しが強いのでグリーンカーテンを設置している。	2階がグループホームとなっている。共有空間には季節の花(毎週ボランティアの方が持参している)や利用者の作品等が飾られ、窓からの眺めもよく四季の移り変わりが感じられる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個別になっており自由に過ごせる環境になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	自宅にいたころの生活と変わりがないように使い慣れた家具など持ち込んでいただき居心地よく過ごせるようにしている	利用者は使い慣れた家具やテレビ等を持ち込んでおり、ベットの向きも利用者の好みにより設置されている。さらに利用者の作品や写真等が飾られ、それぞれ個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活を送っていただけようように手すりの設置位置など工夫している		